

ワケ カタチには理由がある(20)

～アルバトロス(Albatros)D.Va



ドイツのアルバトロス社が製作し、第一次世界大戦の後半、1917年5月にドイツ空軍が戦線に投入した戦闘機です。見てのとおり、V字型の翼間支柱を持ち、スピナーから尾部まで一貫して紡錘形状にきれいに胴体形状をまとめた美しい機体で、木製モノコック構造を有していました。なお、社名 albatros アルバトロス社は、やはりドイツ語のアホウドリから来ていますが、英語の綴り albatross と多少異なります。なお、アルバトロス社は、戦間期である1936年にフォッケウルフ社に吸収合併されて、会社はなくなってしまいますが、その時、アルバトロス社に在籍したのが、後にFw190などの傑作機を設計するクルト・タンク技師でした。もちろん、彼がこの機体の設計にかかわったわけではありませんが、アウトラインを美しく纏めるアルバトロス社の伝統がフォッケウルフ社にうまく移植されたのかもしれない。

【模型について】

チェコのエディアルド(Eduard)製1/72のインジェクションキットです。同社は、数多くの第一次世界大戦の機体をキット化していますが、どれも組みやすく、素晴らしい出来でお勧めです。木目の塗装は、ベース色で全体を塗装した後、パネル毎にマスキングし、平筆を使い、濃い目の茶色でかすれるように木目を描いて再現しています。また、主翼の迷彩パターンは、実機では、塗装ではなくこの模様の布を張っているわけですが、模型では、帯状のシートデカルを張って再現しています。

(中川裕幸 2021年4月)